



沼津商工会議所
青年部

平成29年度
政策提言書



平成30年3月27日

沼津商工会議所青年部

我が国の経済状況は、緩やかな回復基調に乗り、日本経済の復調が見て取れております。しかしながら、地方の経済状況はまだまだ課題が山積で、なかなか回復基調に乗れないのが実状です。消費意欲の低迷や雇用問題、人口減少、少子高齢化などの課題を克服し、政府が掲げる『地方創生』を実現することで、この地域と日本全体の経済を改善させていかななくてはなりません。

私たち沼津商工会議所青年部も、地域を支える商工会議所活動の一役を担い、地域が経済的に発展していくために活動をしております。会員相互の交流から社業発展のための勉強、また地域の賑わい活動に参加することにより、この地域の宝や財産、さらには問題点などを見つけ、そこをどう活かしていくか、改善していくかなどについて意見を交わし、次代への先導者として日々研鑽を重ねております。

しかし、ただ意見を交わしているだけでは先には進みません。その意見を集約し、実行に移さなければ新しい時代、明るい未来へは繋がらないと考えております。

今年度、私たちは地域資源を活用した新しい沼津創造をテーマに政策提言を行うため、1年間かけて担当委員会を中心に検討して参りました。地域資源といっても海・山・川の自然、新鮮な食材、観光地、歴史や文化など沢山あります。アニメ『ラブライブ！サンシャイン!!』や『アスルクラロ沼津』などのスポーツも新しい分野での地域資源です。これら多くの地域資源を特化させ、多岐にわたって活用することで市内はもとより市外、県外、世界から沼津が注目され、交流人口・定住人口の増加に繋がるとともに地域経済を発展させたい、そういう想いでこの提言書を作成させていただきました。

私たち青年部は、年度事業としての政策提言活動は今回が初めてであり、提言書としてまだまだ未熟で稚拙ではございますが、この提言が、大沼津市長の掲げる『世界一元気な沼津』に、国が掲げる『地方創生』の一助となれば幸いです。

ぜひ、その実現に向けて格別のご配慮をいただきたく存じます。

結びに、本提言を作成するにあたり尽力した研修拡大委員会と、ご協力くださいました関係各所の皆様に心より感謝を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

平成30年3月27日

沼津商工会議所青年部
会長 小栗 雄介

平成29年度 提言テーマ

世界一元気な沼津を創っていくためのスポーツを活用した提言

～ 地域スポーツを地域の資源と捉え、力を合わせて自社と愛する街を発展させよう ～

「スポーツ」によるまちづくりは、「外から人を呼んでくる」、「住んでいる人の活性化」という二つの面があり、また、「観る」「する」「支える」など、多様な参加の在り方が可能であることから、人とのコミュニケーションや感動体験の共有など、様々な関係を築くための要素が多分に含まれているという特性を持っています。

一方、わが沼津市は、海、山、川など豊富な地域資源を持ち、それをもとにサイクリング、ダイビング、ゴルフなど、様々なスポーツ活動が行われています。また、古くから東海道の陸路を繋ぐ交通の要衝であり、東海道の宿場町として栄えるなど、県東部地域の政治経済や商業、文化の中心的役割を担ってきた場所でもあります。

このような地理的条件や歴史的経緯を踏まえると、この地において「スポーツのまち沼津」というブランドイメージを確立させ、地域を活性化させることが十分できる潜在能力を有していると考えております。

スポーツは「する」ことで、健康増進・体力向上につながり、「観る」ことで、交流人口の増加やまちの賑わいにもつながります。従って、スポーツを「する」人、「観る」人を増やし、それらを「支える」まちづくりをしていくことが、これからの沼津に必要なものであると考えます。

このような考えから、私たち青年部といたしましては、市長が掲げる「世界一元気な沼津」への実現へ向けて、スポーツによる地域・経済の活性化を図るべく、以下の提言をいたします。

提言 1. スポーツを「する」人を増やす提言

従業員のスポーツ活動促進に向けた取り組みを行う市内の中小企業に対して、「スポーツ推進企業認定制度」の創設を提言します。これにより、認定され表彰された企業に対しては、沼津市のホームページやぬまJob、その他各種媒体への積極的PRを行い、その企業のブランドイメージを向上させ、販路拡大や人材確保に有利に働くような支援を行うことで、沼津市の商工業の活性化を図ることを目指します。

<提言理由>

スポーツをすることは健康増進・体力向上につながります。そして沼津市民の健康寿命が延びることは、その地域で働く高齢者が健康で長く働け、また介護離職する現役世代も減少し、結果的に労働生産力の増加にも繋がります。

従って、市を挙げてスポーツの推進をすることは、沼津市にとって、地域産業振興、地域活性化という観点では非常に有益なことであると考えます。

また、近年、わが国の働き方改革や生産性向上に直結する取り組みとして、「健康経営」を推進する動きが活発化しています。これは、企業が従業員の健康増進への取り組みを、経営上の「コスト」ではなく、「投資」として位置付け、生産性の向上や医療費負担の削減を実現し、更に成長性のある企業として社会的価値の向上を目指す取り組みを、経済産業省が推し進めている施策です。

これは一方で、企業がこのような取り組みを積極的に行うことは、スポーツを「する人」を増やすことにも繋がります。

従って、企業がこのような取り組みに積極的に関わることを後押しするために、従業員のスポーツ活動の促進に向けた取り組みをする企業に対する支援や認定制度の創設^{注1}を提言いたします。

そして、地域の企業で働く従業員が、長い期間健康的に活躍する環境を醸成することにより、沼津市の商工業をより活性化させる一助となり得るものと考えます。

提言2. スポーツを「観る」人を増やす提言

愛鷹広域公園で開催されるアスクラロ沼津の試合や、その他の競技会等への観戦者に向けて、沼津駅からの無料シャトルバスをより充実させるための支援・助成を提言します。これにより、現状よりも多くの人々がスタジアムに足を運ぶようになり、また、駅前との行き来により、中心市街地の活性化にも繋がります。

<提言理由>

スポーツを「観る」人を増やすための取り組みには様々なものが考えられますが、本提言では、スポーツによる沼津市の活性化という点を同じくし、パートナーシップ協定を結んでいるアスクラロ沼津を活用するという視点での提言といたしました。

沼津市を本拠地とするサッカークラブ「アスクラロ沼津」のホームグラウンドは現在愛鷹多目的競技場にあり、中心市街地からかなり遠いことや、駐車場の台数が限られていることなど、中心市街地にある他のスタジアムなどに比べると、立地上不利な状況であり、観客動員数に影響していることは否定できません。

現在、アスクラロ沼津でシャトルバスを運行していますが、乗車料が360円と、決して安い金額ではありません。子供たちにも気軽にスタジアムへ足を運べる環境づくりのためにも、無料のシャトルバス運行を提言いたします。

具体的には、バスを手配するアスクラロ沼津や民間のバス会社に対し助成を行うことで、無料シャトルバスを増発させることができます。これにより多くの人々が試合に足を運び、スポーツを「観る人」を増やすことや交流人口の増に繋がります。また、アスクラロ沼津のJ2参入に際して、観客動員数の部分でも大きな寄与します^{注2}。

更には、本提言の副次的効果として、沼津駅からのシャトルバスを充実させることで、中心市街地の活性化に寄与することにも繋がると考えます。「シャトルバスに乗る」という事は、運転する必要がなくなるため、中心商店街で飲食等を楽しむ機会を増やすことにもなります。

また、静岡市清水区では、清水エスパルスの選手が清水駅前で選手の握手会や交流会（ファンミーティング）を行っていますが、それと同等の取り組みを行うことにより、シャトルバスの利用客も増え、中心市街地に人を集めることが可能となります。これは、好立地な場所にスタジアムが無いことを逆手に取り、シャトルバスを活用することで、欠点を利点に変えることにもなり、沼津市にとっては、活性化に向けた大きな起爆剤になり得る施策であると考えます。

提言3. スポーツを「支える」ための提言

「世界一元気な沼津」の実現に向け、市をあげての「スポーツのまち沼津」という新たなブランドの確立へ向けた積極的な発信を行うことを提言いたします。これにより沼津市が誇る各種スポーツ競技の普及をより活性化させ、オリンピックに向けて日本国内のみならず、世界へも沼津を発信していくことに繋がります。

<提言理由>

先述の無料シャトルバス送迎の提言、従業員のスポーツ活動促進の提言など、スポーツを「する人」や「観る人」を増やすためには、同時にそれらを「支える体制」も充実させていく必要があります。

沼津市スポーツ推進基本計画でも述べられている基本方針^{注5}の中には、「スポーツを支える仕組みの充実」という項目があり、スポーツ指導者やスポーツボランティアの確保・育成、スポーツ関係団体との連携強化などにより、市民の効果的なスポーツ推進を図るとあります。

また、2020年には東京オリンピックが開催され、世界に対して発信できる千載一遇の機会があり、まさに今、沼津市にとってスポーツ振興への取り組みは最重要課題であると考えます。

しかし、スポーツ振興への取り組みは、「こういうことをやれたらいい」というものがほとんどで、喫緊の課題として「こうしなければ市民が困る」というものではないというのが特徴ともいえます。

その結果、どうしても優先順位が下がり他の施策が優先され、なかなか物事が進まない傾向があります。

そこで、上記の通り、「スポーツ」に焦点をあてた新しい地域ブランドを確立させることにより、様々な情報発信などを通じて、スポーツを「支える体制」を後押しさせていくことが可能になると考えます。

既に、沼津市には、体育協会のスローガンとして「スポーツの香りのする街 沼津」を掲げていますが、こちらをさらに一歩進め、「**スポーツのまち沼津**」というブランドとして確立させ、「スポーツと言えば沼津」というアピールを、沼津市を中心として一丸となって進めて頂きたいと考えております。

沼津市には、着実に施設や大会開催など環境を整えつつあるフェンシング^{注3}や、ホストタウン^{注4}登録や事前合宿の候補地誘致などに積極的に取り組んでいるレスリング、中心市街地を流れる川で行うボート競技など、サッカーなどの団体競技だけでなく、個人競技を含めた実にバラエティに富んだスポーツ競技が盛んではあるものの、それらがなかなか浸透していないという事実もあります。

「スポーツのまち沼津」の名のもと、沼津市が誇る上記のスポーツ競技などを中心に、対外的にも積極的にPRすることで、交流人口増加やスポーツ人口増加が促され、それによって沼津の商工業の活性化にも繋がるものと考えます。

そして、市全体としてスポーツを支えていくという機運を高め、優先順位が下がりがちなスポーツ振興の取り組みを積極的かつ優先的に行うことができれば、例えばスポーツ施設や体育館の予約の仕組みや、沼津市主催のスポーツ大会等が増えるなどの効果にも繋がるものと考えます。結果的に、「スポーツ」を沼津市の新たなブランドとして日本国内だけでなく、世界にも発信していくことになり、市長が掲げる「世界一元気な沼津」実現に向け、大きく前進するものと考えます。

<参考資料>

注1：認定制度の事例

東京都では、平成27年度より従業員のスポーツ活動の促進に向けた取組やスポーツ分野における支援を実施している企業等を「東京都スポーツ推進企業」認定しております。（平成29年度は196社）

この中から、特に社会的な影響や波及効果の大きい取組をしている企業等を「東京都スポーツ推進モデル企業」として選定、表彰しております。

注2：J2ライセンス基準

●固定観客席数1万席以上（現在は5千席）／ ●照明の拡充／ ●客席の屋根／ ●大型映像装置の設置／ ●年間順位2位以内／ ●年間平均入場者数3,000人以上

注3：フェンシングの取り組み

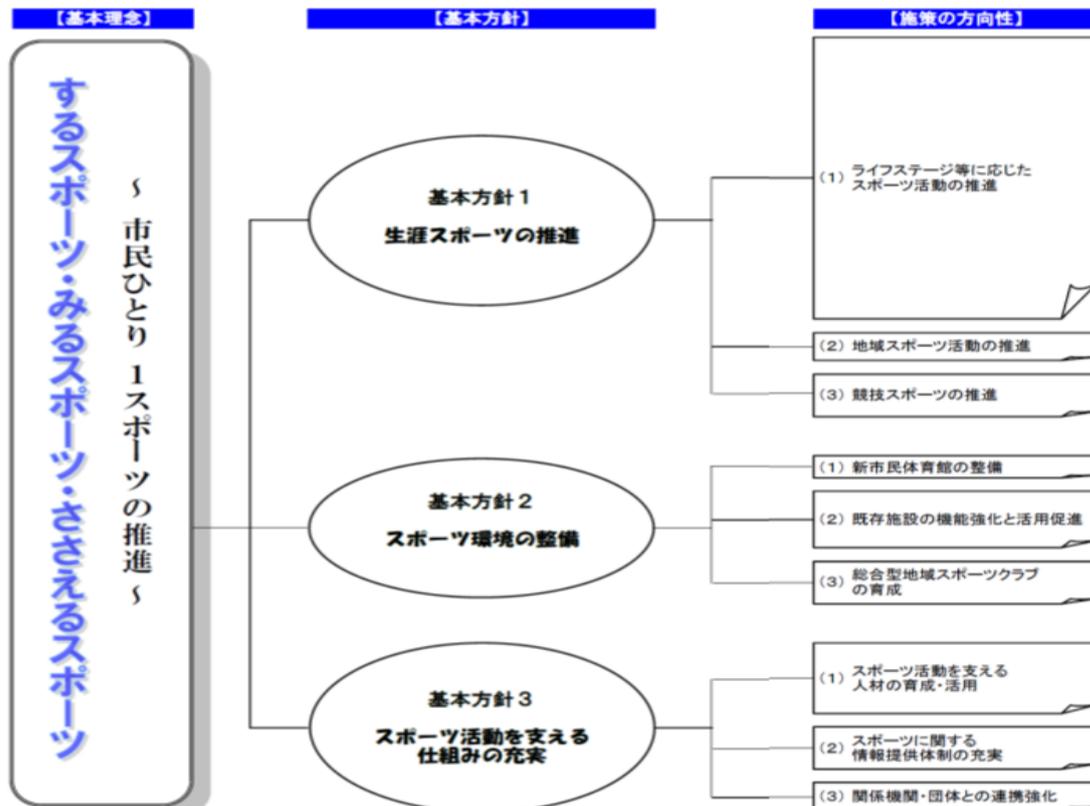
フェンシングにおいては試合に不可欠な競技用の台（ピスト）や競技場となり得る場所（プラサヴェルデ）などが揃っており、市民レベルでもフェンシングの団体（特定非営利活動法人 沼津新鮮組）が設立されるなど合宿地となり得る条件が整っております。そのような中で、平成31年にはフェンシング全国少年大会が沼津市で行われ、2日間にわたり選手・選手の父兄・コーチなど多くの方が沼津に滞在し、飲食を含めた様々な消費活動を行う予定です。

注4：ホストタウン

2020年の東京オリンピック開催に向け、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体を「ホストタウン」として全国各地に広げることを内閣府が行っており、それに対してかかる費用の半分を国が補助することになっております。すでに、三島市は米国、焼津市・伊豆の国市・島田市はモンゴル、藤枝市はイタリアなど、静岡県内11市が既に登録認定されております。

注5：沼津市スポーツ推進基本計画における基本的方針

（2）体系図



最後に

沼津YEGとしてできること

我々沼津YEGはこの提言実現に向けて、

- ① 会員企業への従業員へのスポーツ推進における重要性の啓蒙活動
- ② シャトルバスの発着に合わせた中心市街地活性化に対するイベント等の開催支援
- ③ 「スポーツのまち沼津」という新ブランドを全国に向けて積極的に情報発信を行います。

<提言書作成> 沼津商工会議所青年部 平成29年度 研修拡大委員会

<担当副会長> 吉川正明

<委員長> 前橋将彰

<副委員長> 佐藤喜紀 鈴木貴博 漆畑健

<委員> 飯田志隆 早川遼太 佐野雅文 山本益弘 岡山哲也 栗原友彦 高野貴好

加藤明子 神農明彦 芦澤剛彦 園田勝 半田健治 中島満 中沢文昭 井出貴之

佐藤有治 信井景草 古地鎮珠 小暮朋美 小林一樹 小森裕之 山崎宏

平田百彩 林正広 石井優 石井誠一 秋山龍治 窪野岳 笈川昌大 米元孝一

草谷修一 軍司芳孝 遠藤啓太 都築正明 鈴木克実 長田真樹 頼重秀一